



能登やさしいこめづくり情報

田植え編

育苗日数1か月以内の健苗を植え、分けつを確保！

令和2年4月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A 能登わかば

1 健苗の準備

◆育苗日数1か月(20~30日)以内が田植えに適した苗です。

- ・育苗日数が長く、葉令が進んだ老化苗を田植えすると、活着(自根で養分や水分の吸収が可能)が遅れ、穂となる分けつ(有効茎)の数が少なくなります。一方、遅く発生する分けつが多くなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。
- ・活着を早くするためには、種もみの中に養分の残っている状態、葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。
- ・田植えの4~5日前からは夜間もハウス側面を開放し、外気に慣らしましょう(順化)。

2 代かき作業について【超重要】

- ・環境に配慮した「能登米」生産において濁水の河川流入を防止する観点から、浅水での代かき作業を実施し、代かき濁水は排水しないようにして下さい。また、田植え前の「強制落水」は避けて下さい。
- ・作業は田植え日や除草剤散布日を考えて計画的に実施して下さい。

3 田植え作業について

- (1) 時期 : 登熟期の高温のリスクを避けるため、5月に入ってから行いましょう。
また、低温、強風の日を控えて下さい。
- (2) 植付本数 : 1株当たり3~4本の細植えとしましょう。
- (3) 栽植密度 : 60株/坪以上とし、中山間地・低地力・遅植えの場合は、未熟粒発生防止のため70株/坪として下さい。
- (4) 植付深さ : 初期生育を促進させるため、2~3cm(第1葉が見える程度)の浅植えとしましょう。
田植え前と田植え中に、田植機の栽植密度、植付け深さの設定を確認して下さい。
- (5) 水管理 : 活着後は浅水管理(2~3cm)を基本とし、低温が予測される日や風が強い日のみ一時的に深水管理とします。(天候回復後は速やかに浅水管理に戻して下さい)

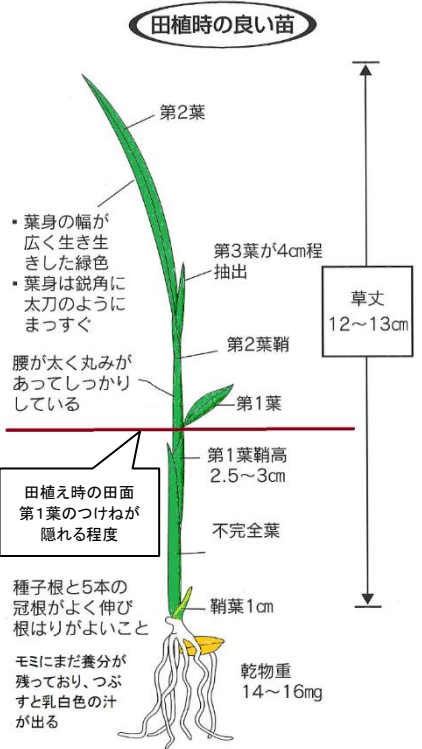
4 基肥施用について (能登米コシヒカリは化学合成窒素成分量5.6kg/10a以下)

- ・基肥一発肥料は全層施肥の場合、代かき直前に行い、代かきから田植えまでを5日以上空けないようにして下さい。(施用日と田植日の日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育がズレ、倒伏や品質低下を招きます。)

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB 有機入り能登コシ一発	20~上限30	—
	BB けい酸パワー・コシ一発くん	40~上限55	—
	BB 里山の香	45~上限53	—
	BB 新早生一発くん	—	35~40
分施体系	BB 高度056号	20~上限28	30~40

※ 施用量は目安です。地力に応じて加減して下さい。

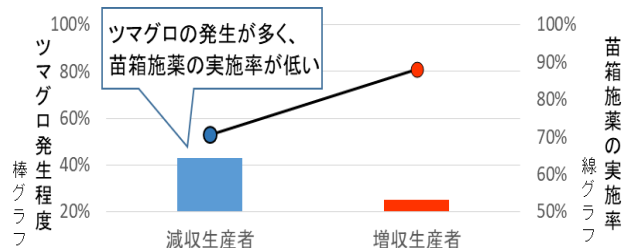
※ コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した能登米栽培のため、施用量の上限を厳守して下さい。



5 病害虫防除について

◆ 苗箱施薬剤の散布について

- ・初期害虫(イネミズゾウムシ、イネドロオウムシ)や葉いもちの常発地について予防のため、防除を実施して下さい。
- ・昨年度に行った減収実態調査の結果から、**箱剤の実施率が低いとツマグロヨコバイの発生が多くなり、減収することが明らかとなった(図1)ため、必ず施用するようにして下さい。**



＜図1＞ツマグロヨコバイの発生と苗箱施薬剤の実施率

薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
Dr.オリゼフェルテラ粒剤 (2成分)	田植3日前～ 田植当日	50 g/箱	いもち病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオウムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ

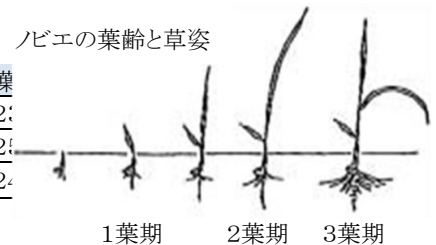
- ※ JAからの購入苗には苗箱施薬剤が散布済みの苗があります。重複散布しないよう注意して下さい。
- ※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落して下さい。

6 除草剤の使用について

- ・雑草は代かき直後から発生し始めます。**除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布**して下さい。
- ・湛水散布する除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。
- ・除草剤の効果を十分発揮させるため、田植後は、直ちにゆるやかに入水し、湛水状態(4～5cm)を保ちましょう。
- ・また、**安定した効果を得るため、散布後3～4日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態(4～5cm)を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。**なお、やむを得ず入水する場合は静かに(処理層を壊さないよう)行って下さい。

(参考)代かき後の日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉齢	1.5 葉齢	2.0 葉齢	2.5 葉齢	葉
代かき後の日数 (平年の場合)	羽咋	7日	12日	16日	20日	2:
	志賀	8日	13日	17日	21日	2:
	七尾	8日	13日	17日	20日	2:



※ 5月1日に代かきを行った場合で平年の有効積算温度により試算

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
初期剤 1成分	マーシート1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ1葉期
	ベクサーフロアブル	500mL	田植同時～ノビエ発生始期

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
中期剤 3成分	マメットSM1キロ粒剤	1kg	田植後15日(稲5葉期以降)～ノビエ3.5葉期

残草・後発生があった場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期	
初中期一発剤 2成分	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	エンペラー1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	コメット	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期
		顆粒	80g	田植同時～ノビエ2.5葉期
	3成分	1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ3葉期
		アッパレZ フロアブル	500mL	田植後3日～ノビエ3葉期
		ジャンボ	400g	田植後3日～ノビエ3葉期
サラブレッドKAI1キロ粒剤	1kg	田植同時～ノビエ2.5葉期		

残草・後発生がある場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
後期剤 1成分	※多年生雑草が残った場合 アトトリ1キロ粒剤	1kg	田植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期
	※ノビエのみ残った場合 ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg	田植後15日～ノビエ4葉期
	※広葉・多年生雑草が残った場合 バサグラン粒剤	3～4kg	田植後15日～55日(落水散布)

能登米コシヒカリに使用できる除草剤は限られています。この情報に記載の剤は使用可能。他に使用できる剤は営農ごよみ等を確認してください。「能登米コシヒカリ」以外の品種は除草剤の指定はありません。

7 補植について

- ・**20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。**隣接株が大きく育ちカバーするため減収にはつながりません。(補償作用)なお、やむを得ず補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい。(散布後では、除草剤の薬害により補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります)
- ・**補植用の活け苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業後は速やかにほ場から撤去して下さい。(最近目立ちます)**

安全・安心で環境にやさしい能登の米づくりルール

- **安全・安心な米を提供するため、農薬はラベルに記述してある使用方法を厳守して下さい。**
- **水稲育苗後に野菜を作付する場合、ハウス内で水稲用農薬を散布しないで下さい。**
水稲用農薬が野菜に残留する可能性があります。残留すると野菜の出荷・販売はできません。
- **代かき後の濁水の河川への流出防止に努めましょう。**

代かき後の濁水の流出は下流域の河川の濁りの原因となります。僅かな流出でも、集まると大きな濁りにつながります。流出防止のために、代かき作業は浅水で行い、田植前に濁水を流す「強制落水」は行わないで下さい。